

<全体分析>

試験時間 2科目150分

解答形式

記述, 論述, 選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は例年通り3題であり、全体の論述量は昨年の20行程度から23行程度とあまり変わらず、問題文のページ数や文章量、小問数なども大きな変化はみられなかったことから、全体としての分量は昨年並みであった。また、昨年同様、難度の高い考察問題が多く出題されており、難易度は昨年並みであったと考えられる。

出題の特徴と昨年との変更点

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1～3行の論述問題がほとんどだが、今年は指定行数4行の論述が2問出題された。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択	遺伝子	生物	H 遺伝子 N 欠損株と遺伝子 P 遺伝子 N 二重欠損株で増殖能に差があることから、遺伝子 P は、遺伝子 N の発現抑制以外のはたらきをもつと考えられる。	やや難
第2問	記述 論述 選択	進化 遺伝子 植物の反応 細胞	生物	G 有毛型が少数派のときは、有毛型の方が食害面積が小さくなることで、無毛型よりも有毛型の方が適応度が大きくなる。	標準
第3問	記述 論述 選択	発生 遺伝子 細胞 系統	生物	B (2)のフンセンチュウはセンチュウ(線形動物)の1種である。また、(3)のシマヘビは脱皮して成長するが脊椎動物である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、その内容を正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心を持ち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。